パナマ定期報告（経済概況　２０１４年１月）

＜主な出来事＞

●パナマ自動車販売業協会によると、２０１３年の新車販売台数は５６，１４７台（前年　比１０．９％増）に達した。

●２１日、サントス・コロンビア大統領は、２０１３年３月１日以降ＦＴＡ未締結国から　輸入される繊維及び靴に関税を適用している件に関し、さらに２年間適用を継続すると　述べた。

●パナマ運河第３閘門建設工事を受注した企業連合ＧＵＰＣが、パナマ運河庁（ＡＣＰ）　に対して１６億ドルの工費増額を要請している問題は、ＡＣＰとＧＵＰＣの意見の隔た　りが大きく、何ら合意に至っていない。

●２７日、カナダのＦｉｒｓｔ Ｑｕａｎｔｕｍ社は、ペタキージャ銅山開発の最新状況を　発表した。

１． 経済一般

（１）２０１３年１～１１月期のトクメン国際空港利用者数及びパナマ入国者数

トクメン国際空港会社によると、２０１３年１～１１月期の同空港利用者数は７０５万２９３人（前年同期比１１．８％増）、入国者数は１７９万６，８０６人（同６．１％増）に達した。

（２）２０１３年１～１０月期の金輸出額

会計検査院によると、２０１３年１～１０月期の金輸出額は、国際市場価格の低下により６，３５０万ドル（前年同期比３５．７％減）に減少した。

（３）２０１３年の新車販売台数

パナマ自動車販売業協会によると、２０１３年の新車販売台数は５６，１４７台（前年比１０．９％増）に達した。１位トヨタ（１１，９３６台、前年比１５．２％増）、２位現代（１１，８３１台、同６．９％増）、３位起亜（７，８０５台、同２６．１％増）。

（４）コパ航空の３都市向け直行便の新規就航

２２日、エイルブロン・コパ航空社長は、今年６月にモントリオール、７月にフォートローダーデール（米フロリダ州）及びジョージタウン（ガイアナ）向け直行便を就航させると発表した。これでコパ航空の就航は３０ヶ国６９都市となる。

（５）２０１３年第４四半期のパナマ運河通航貨物量

２２日、パナマ運河庁は、米国産穀物の豊作によりアジア向け輸出が増加したことが奏功し、２０１３年第４四半期（パナマ運河庁の会計年度は１０月～９月のため２０１４年度第１四半期）のパナマ運河通航貨物量が過去最高の８，７７０万ＰＣ／ＵＭＳトンを記録したと発表した。

（６）ペタキージャ銅山開発の最新状況

２７日、カナダのＦｉｒｓｔ Ｑｕａｎｔｕｍ社は、ペタキージャ銅山開発の最新状況を発表し、総事業費６４億２、５００万ドル、操業年数３４年、年間生産量は銅３２万トン、金１０万オンス、銀１８０万オンス、モリブデン３，５００トン、精鉱開始は２０１７年第４四半期と発表した。

（７）２０１３年のパナマ訪問者数

観光庁によると、２０１３年のパナマ訪問者数は２２０万１，８５４人（前年比５．６％増）に達した。

２． 通商、自由貿易協定、国際経済関連

（１）メキシコとのミニＦＴＡ交渉

１３～１７日、パナマシティにてメキシコとのミニＦＴＡ交渉が行われ、物品市場アクセス、原産地規則及び手続き、サービス・投資、公共調達について協議した。なお、第４回ＦＴＡ交渉は、２月４～７日にメキシコシティにて行われる予定。

（２）コロンビアによるＦＴＡ未締結国からの繊維及び靴への関税適用問題

２１日、サントス・コロンビア大統領は、２０１３年３月１日以降ＦＴＡ未締結国から輸入される繊維及び靴に関税を適用している件に関し、さらに２年間適用を継続すると述べた。

これを受け、２３日、エンリケス大統領府相は、「この関税はＷＴＯ規則を超える不当なものであり、パナマとして報復措置を検討している。」と述べた。

（３）コロンビアとの第１回政策協議メカニズム会合

２１日、アロセメナ外務次官率いるパナマ代表団は、ボゴタにて開催されたコロンビアとの第１回政策協議メカニズム会合に出席し、コロンビアのオルギン外相及びロンドーニョ外務次官と政治・経済・貿易・協力・入国管理について協議した。

（４）マルティネリ大統領のダボス会議出席

２２日、マルティネリ大統領は、ダボス会議に出席し、パナマ運河拡張工事は当事者間の契約に則って完了されるべきであると述べた他、ルッテ蘭首相及びクラークＳＡＢミラー社長との会談、４月にパナマで開催される世界経済フォーラム・ラ米会合の宣伝のためラ米メディアとの懇談を行った。翌２３日、同大統領は、シュワブＷＥＦ会長、ネタニヤフ・イスラエル首相と相次いで会談した。

３． パナマ運河及びインフラ関連

（１）パナマ運河拡張工事

パナマ運河拡張工事の主要工事である第３閘門建設工事を受注した企業連合ＧＵＰＣが、パナマ運河庁（ＡＣＰ）に対して１６億ドルの工費増額を要請している問題で、保険会社チューリッヒ・アメリカ社、ＡＣＰ、ＧＵＰＣの三者は、善後策を話し合うため、２１、２８、２９日と協議を繰り返したが、ＡＣＰとＧＵＰＣの意見には大きな隔たりがあり、１月末現在、何ら合意には至っておらず、引き続き協議が継続されている。同工事の稼働率は、昨年１２月のピーク時と比較して２５～３０％程度まで減少している。

なお、１月現在、第３閘門建設工事の進捗率は６６％、パナマ運河拡張工事全体の進捗率は７２％。

（２）メトロ１号線

１９日、メトロ１号線の工事全体の進捗率は９６％に達した。

４． 経済指標、経済見通し等

（１）２０１３年通年の消費者物価指数

会計検査院は、２０１３年通年の消費者物価指数が前年比４．０％上昇したと発表した。

（２）ＣＥＰＡＬによる２０１３年のパナマの経済成長率

１３日、ＣＥＰＡＬは、２０１３年ラ米・カリブ年間統計を発表し、同年のパナマの経済成長率はパラグアイに次ぎ同地域２位の７．５％であるとした。（注：会計検査院は、２０１３年の経済成長率をまだ公式発表していない。）

（３）世界銀行による「２０１４年世界経済見通し」

１４日、世界銀行は「２０１４年世界経済見通し」を発表し、同年のパナマの経済成長率を７．３％と予測した。

（４）フィッチ・レーティングス社による２０１４年のパナマの経済成長率予測

格付け会社フィッチ・レーティングス社は、２０１４年のパナマの経済成長率を７．０％と予測した。

（５）２０１３年１２月末時点の公的債務残高

経済財務省公的融資局は、２０１３年１２月末時点の公的債務残高１５６億８，３６０万ドル（前月比１．６％減）に達したと発表した。対外債務が１２２億３，１００万ドル（公的債務残高の７８．０％）、国内債務が３４億５，２６０万ドル（同２２．０％）。

（６）２０１３年１～１１月期の月例経済活動指数

２４日、会計検査院は、２０１３年１～１１月期の月例経済活動指数が前年同期比７．７８％増加したと発表した。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(了)